

いきいき萌丘ささき重信通信

発行: 萌丘幼稚園 萌丘東幼稚園 萌丘東保育園 いきいき萌丘東ノ郷 理事長 ささき重信 (電話 82-1255)

市民の皆さんへ 公選法で挨拶行為は禁止されていますので、この度の市長選の経緯と選挙公約について、どんな内容でどんな戦であったのか、通信にてお知らせしますので、ご理解のほどお願いします。選挙の挨拶行為ではありません、お許し下さい。

さて、どなたかの声かけにより、市民への恩返しに市議になって2年間は過ぎました。この間の議会活動の中、あまりにも市政に行き過ぎが見えて、その行き過ぎを止めるに、誰か意を同じくする人に市長になって欲しいと煩悶した年月でした。

それは、新庁舎が落成して喜んでおりました折、突然 44 億円の図書館等の周辺整備が出て来たのでした。基金の積立もないのに、又 4 年前の市長選で図書館の「ト」の字も云っていないのに、公約であるとどんどん (なし崩しに) 進める市長の姿勢に、議会で質問し諭しても受入れようとしないう経緯でした。建物をつくれれば良いではありません、本当に困ったことでした。令和2年9月議会のことでした。

それ故、市長選に出て欲しいと話を始めました。通信でも公募を始めました。そんな動きの中で、市長選について声をかけると、驚く人ばかりでした。そんな雰囲気、もっぱらであり、市長選への考えのある人は、現れそうもありませんでした。

令和2年10月のこと、私、病気が分り、12/7 議会質問し直ちに入院手術となり、12/1、1/25、2/19、3/8、4/1 と立て続けに、通信にて出馬の公募をしましたが、現れてくれません。電話申込みもありません。これでは、行き過ぎ止められない。経験ある方や力のある人に、声をかけましたが、理解されても快諾には至りませんでした。東京の息子にも声をかけ談判しましたが、困難な状況でした。今やらなければ、図書館等の行き過ぎは止められない、押し迫った4月9日 出馬の記者会見に至ったのでした。

その後も、誰か出て欲しいと願いながら、準備は進めておりました。告示4月18日でも、出る人現れてくれれば、全身全霊で応援しようと思っておったのでした。しかし時が来て最終的に、市長選に届出し立候補に至ったのでした。

私は、この様に政策を公約に掲げ、力のある限り街頭演説をしました。

ささき重信 次のことは必ずやります。

◎ 44 億円の図書館等は中止します。

今の図書館は、まだ使います。建設中止し、より良い庁舎周辺に整備します。

◎ コロナ対策として、1人5万円を給付します。

疲弊し困った今、給付金を支給し8万市民に元気を与えます。40億円(1人当たり5万円)大切なお金です。平等に有効につかうことです。岡崎市、丹波市では、5万円給付金公約の候補者が勝利しています。真岡市も先進地に続きましょう。

◎水道料金宇都宮市と同じ10㎡当たり961円(現在真岡市1,512円)にします。

◎旧真岡と旧二宮はインフラ等平等に整備 ◎福祉バスは全地域ネットワーク

◎インターチェンジを誘致◎女性の幹部職登用 ◎西田井、物部保育所存続

◎建設請負納品等地元業者優先 ◎教育と福祉の充実 ◎真岡のシンボル創

◎ボトムアップの公平公正な誇れる真岡市

4億円で、図書館よりも直売所(安くて美味しいイチゴ、トマト、メロンに花卉で、市の顔にイメージアップ)



図書館等の建設中止を諭し質問する姿(9月議会)

石坂候補の公約（選挙公報から）

○ こどもの元気な成長プロジェクト

確かな学力の育成など教育環境の充実により、たくましい「もおかつ子」を育てます。

○ 若い世代・子育て応援プロジェクト

若者が魅力を感じ、ファミリー世帯が住みやすいと思えるまちの実現に向け、若者や女性の仕事をつくり、子育て支援を充実します。

○ いつまでも安心な暮らしの実現プロジェクト

高齢者や障がいのある人にも優しい、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

○ とちぎをリードする産業プロジェクト

東京圏を意識した戦略的な園芸農業の推進や、魅力ある産業の創出により、若い世代を呼び込み、経済活動を県内トップクラスに伸ばします。

○ まちの活力再生・魅力創出プロジェクト

若い世代が魅力を感じ、担い手となって未来をとともに描いていけるような、新たなもおかの元気を創出します。

これが、石坂候補が市民と約束した政策です。抽象的で具体的に何をしようとしているのか分らない公約です。従って、この様な抽象的な表現が公約ですと、石坂候補が都合いいように、建物をつくったり、事業がなさったりすることが、可能になってしまう危い公約になってしまうのです。しかし、良識をもって市政を執行してくれることを願っていました。また、そう信じている私です。

7日間の選挙選、私は、図書館、周辺整備、水道料金、コロナ対策5万円給付金等々を公約に、市内隅々125ヶ所にて5、6分ですが街頭演説を行って参りました。

石坂候補は、庁舎前の図書館の必要性について、殆ど話もなく、建設に44億円はかからないとか補助金が沢山あるとかの演説はありましたが、政策論争のない選挙であったとのインタビュー（4/26 下野新聞）には、空しく聞けた次第です。

特に私は、図書館建設中止や水道料引き下げを強く訴えて参りました。従いまして、石坂候補が、何故新庁舎の前に図書館をつくるのか、その考えを、あまり示さなかったことが悔やまれます。又、水道料金の引き下げを積極的に投げかけましたが、何故か殆ど返答がなかったことも残念でありました。

コロナ対策給付金については、私は、頭と心で実現すると街頭演説をして参りました。即ち、1人当たり50,000円の給付金について、生活を守り経済を支える為、コロナ対策給付商品券として、真岡市内でのみ使える商品券方法を考えておりました。この私案をもとに、職員及び議員と協議し、より良い給付金の実施を決意いたして、公約として市民に公言し戦った7日間でした。

これに対し、石坂候補は、詭弁だとか弁明の言葉に終始していましたが、出来れば、互にかみ合う議論を行い、市民にとって何が必要なのか等々を議論し合えれば、市民生活と経済支援の1ページに、なったのでなかろうかと思えて残念です。

そんな思いですが、新聞（4/29）への投書の記事「落選でも47.5%の得票はすごいです。図書館建設は一度立ち止まって、市民アンケートを取って決めては如何でしょう。」との良識ある市民の声には救われる思いです。ほんとうに、心が安らぎ心が癒された次第です。

そんな思いですが、福祉バスの全地域化、二宮地区のインフラ整備、二宮インターチェンジへの道筋等々、たてることができなくなってしまったかと思いと、残念でもったいない心境です。そんな極まりない思いの日々であります。今日、明日に向かって、真岡市8万市民のご多幸とご健勝を願う私であります。